

令和3年度

小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会

(第1回)

日 時	令和3年6月2日(水) 午前10時00分から
場 所	小牧市役所 東庁舎 1階会議室1-1

令和3年度第1回小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会

日 時	令和3年6月2日（水）午前10時	
場 所	小牧市役所東庁舎 1階1-1会議室	
学識経験者	愛知文教大学 特任教授	副島 孝
教育関係者	小牧市教育委員会 教育委員	伊藤 和子
	小牧市小中学校校長会 代表	中川 裕子
	光ヶ丘小学校 教頭	倉知 憲
	小牧小学校 学校地域コーディネーター	佐橋 明味
	光ヶ丘小学校 学校地域コーディネーター	山井 真理子
	放課後子ども教室安全管理指導員	山岸 伊久美
児童福祉 関係者	小牧市社会福祉協議会 代表	山田 好広
	小牧児童クラブ 所長	中嶋 とも江
	光ヶ丘児童クラブ 所長	柿本 美津江
	北里児童クラブ 所長	香村 理恵子
	篠岡児童館 館長	寺田 友子
地域住民	小牧小学校 P T A母親代表	高沢 久美子
	光ヶ丘小学校 P T A母親代表	岩下 優美
欠席委員	小牧小学校 校長	岩瀬 将之

【事務局】

おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただいまから、令和3年度第1回小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会を開催します。私は、本日の司会を担当いたします、こども政策課長の伊藤と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

本日の委員会につきましては、新型コロナウイルス感染予防のために、事務局はマスクの着用をさせていただいております。発言等が聞きづらく感じられる部分もあるかと思いますが、ご理解の程よろしく願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。事前に配布いたしました資料として、「次第」、資料1「小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会 委員名簿」、資料2-1「小牧市放課後子ども総合プラン」、資料2-2「小牧市放課後子ども総合プランの概要」、資料2-3「小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会・運営委員会 検討スケジュール」、資料2-4「令和3年度小牧市放課後子ども総合プラン実施スケジュール」。こちらにつきましては本日机上に差替え資料を配布させていただいておりますので、資料の差替えをお願いいたします。資料2-5「児童クラブ従事者及び放課後子ども従事者との情報交換会について」、資料3-1「関係者アンケートについて」、資料3-2「関係者アンケート用紙」。児童用・保護者用・従事者用の3枚になっております。そして、資料4「合同の体験活動の確認について」です。

最後に、こちらも本日配布させていただいておりますが、放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱、以上となります。不足等ございませんでしょうか。

今年度より委員会名称を小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会から運営委員会に変更することに伴い、委員会の設置要綱も変更となっておりますため、本日配布させていただいております。また、今回より委員をお願いする方につきましては、机上に委嘱状を配布させていただいております。

本委員会は、前身である小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会の令和元年度第1回委員会において公開とすることを議決いただいております、本年度も同様に公開となりますのでご承知おきください。

本日は1名の方が傍聴されていますことを報告させていただきます。

また、会議の定足数につきましては、要綱第5条第2項の規定により委員の過半数以上の出席が必要とされていますが、本日は14名の方が出席されており、会議として成立することを報告させていただきます。なお、岩瀬委員からはご欠席とのご連絡をいただいております。

本来であれば、ここでこども未来部長の鍛冶屋よりご挨拶申し上げるところですが、不在にしておりますので、こども未来部次長の櫻井よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

皆様こんにちは。こども未来部の櫻井でございます。お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

小牧市放課後子ども総合プランの導入につきましては、令和元年7月に第1回の導入検討委員会を開催し、令和2年度まで延べ8回の委員会を開催し、皆様方から様々なご意見をいただきながら検討を進めてまいりました。

検討の過程において、市内全16小学校で一斉に導入するのではなく、まずは小牧小学校、光ヶ丘小学校の2校でモデル事業を令和3年度に実施し、その評価・検証を踏まえて令和4年度以降の事業計画を検討することとなりました。

皆様方におかれましては、昨年度の委員会にて、それぞれのお立場からモデル事業の詳細設計

についてご意見をいただき、10月に提言書をおまとめいただいておりますが、令和3年度も引き続き委員をお願いさせていただき、今までの検討の流れを踏まえた評価・検証を今年度お願いしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため緊急事態宣言が発令中ではありますが、本日も、忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、簡単ではありますが私からのあいさつとさせていただきます。

【事務局】

それでは、次第の2 委員の皆様の委嘱又は任命を行います。資料1をご覧ください。

昨年度の小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会では15名の方に委員をお務めいただいております。今年度は小牧、光ヶ丘小学校にてモデル事業を実施してその評価・検証を行うこととしており、引き続き両校の関係者の方に委員会に加わっていただき、資料1の委員名簿の構成にて検討を進めていただきたいと思います。

新たな委員の方に係る要綱第3条第2項の委員の委嘱又は任命につきましては、本来であればお一人ずつ委嘱状又は任命書を交付させていただき、お手元での交付に代えさせていただきますのでご了承くださいますようお願いいたします。

【事務局】

次に次第の3 委員・事務局の紹介です。

令和3年度として最初の委員会ですので、全員の方に自己紹介をお願いしたいところですが、新型コロナウイルス感染症の状況もありますので、資料1の名簿に替えさせていただきます。

なお、今年度は小牧小学校PTA母親代表 高沢久美子様と、光ヶ丘小学校PTA母親代表 岩下優美様が新たに委員となっております。

皆様どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、事務局を紹介させていただきます。こども未来部次長の櫻井。学校教育課管理指導主事の加藤。放課後子ども総合プランコーディネーターの舟橋。その他、関係する係長等が出席しております。よろしくお願いいたします。

それでは、これからの進行につきましては副島委員長にお願いいたします。

【副島委員長】

改めまして皆さまおはようございます。新たに委員になられました2名の方以外は昨年度の検討委員会と同じメンバーとなっております。モデル事業を具体的に評価・検討していくのが今年度の具体的な内容となります。よろしくお願いいたします。

昨年度はできるだけ全員の方に発言いただくよう気を付けておりました。今年度は新型コロナウイルスの状況も大変気になるところです。

皆さんもお気づきかと思いますが、10歳未満や10代の感染がかなり多い状況だと思います。私は個人的に、公表される年代別の人数を集計し、エクセルでグラフを作成しているのですが、昨年度までとはまったく様子が違います。感染状況は小さい子が多くなり、高齢者が少なくなっています。そのように考えますと、本日お集りの皆さまは本当に大変な状況の中でお仕事されているのだと思います。

このような状況もありまして、本日の議事進行に関しましては、もちろん不明な点や疑問は遠慮なく言っていただきたいと思います。変異株ができてからマスクをしている状態での感染も拡大していると聞いていますので、必要以上に長引かせることは無いようにしたいと思います。

もう1点、事務局紹介の中でコーディネーターの舟橋先生の紹介がありましたが、昨年度の会

議の中で、この業務を専門に行うコーディネーターがいまいか、ということをご皆さんで強く言っていただき、事務局でも市の財政と折衝して認めていただいたという経緯があります。今後、直接の窓口はコーディネーターになると思いますので、これからぜひ一緒にいろいろなことを検討していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議題の1「小牧市放課後子ども総合プランについて」事務局からの説明をお願いします。

【事務局】

それでは、小牧市放課後子ども総合プランについて説明いたします。

資料2-1をご覧ください。小牧市における放課後子ども総合プランについては、左上になりますが、目指す姿を「すべての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、児童クラブと放課後子ども教室を一体的に運営し、児童にとってよりよい学びの場や居場所を提供する」こととしております。

この目指す姿に対しては、次に右上になりますが、平成30年6月から児童の放課後のあり方に関する検討部会、令和元年6月から小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会においてご検討いただき、それぞれの提言をもとにして現場の創意工夫と関係者の支援により、今年度よりモデル事業を実施することとして進めています。

小牧市放課後子ども総合プランの活動内容としては、左から児童クラブは毎週月曜日から土曜日、保護者が労働等により昼間家庭にいない児童が参加できる遊びや生活の場として宿題や読書等を行っています。一番右の放課後子ども教室は、月に2から3回程度、希望する児童が参加できる安全・安心な活動拠点として読み聞かせや工作等を行っています。

そして、中央の児童クラブ、放課後子ども教室合同の体験活動として、学期に2回程度、放課後子ども教室が実施している体験活動をベースに、様々な講師、ボランティアによる多様な活動を実施し、児童の健全な育成を図る場として実施することとしています。

これらの活動の従事者としては、児童クラブは所長、指導員、支援員がおり、放課後子ども教室は学校地域コーディネーター、安全管理指導員がおり、合同の体験活動を実施するにあたっては中央の放課後子ども総合プランコーディネーターが両者間の調整を行います。

また、従事者を支える体制としては、学校やボランティア団体等及び市の関係機関、市全体の評価・検証の場として総合プラン運営委員会、つまり本委員会と、学校毎の情報交換等の場として総合プランに関する協議会を設置することとしています。

資料2-2は、資料2-1の内容を利用者への周知向けとして作成したものであり、概ね資料2-1と同じ内容となります。

次に資料2-3をご覧ください。

令和元年度からの小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会以降の検討状況をまとめています。令和元年7月から延べ8回にわたる委員会で、小牧市の放課後子ども総合プランに関する提言書をおまとめいただきました。令和3年度は、委員会名称を運営委員会に改め、3回の委員会によりモデル事業の評価及び令和4年度以降の事業内容を検討していただく予定です。

次に資料2-4をご覧ください。令和3年度のスケジュールとなります。

まず左の1「運営委員会」として、本日6月2日に第1回目、11月中旬頃に第2回目、2月初旬頃に第3回目を予定しています。

次に2「協議会」として、既存の各校の学校運営協議会にて情報交換等を行うこととしていますが、令和3年度の実施時期等は後程モデル校である小牧小学校、光ヶ丘小学校と調整させていただきたいと思います。

次に3「合同の体験活動」として、まず小牧小学校は7月15日に1回目の合同の体験活動を

実施する予定としています。また光ヶ丘小学校は6月17日に1回目の合同の体験活動を実施する予定としています。両校とも、2学期には有償講師等によるより本格的な活動1回を含めて3回程度、3学期は2回程度を実施する予定としています。

それから本運営委員会で評価を行うための資料として、関係者アンケートについて11月の2回目の委員会に集計結果をお示しできるように進めたいと考えています。

次に4「児童クラブ従事者及び放課後子ども教室従事者との情報交換会」として、6月の25、29、30日に予定しています。詳細は次の資料で説明します。

次に5「令和4年度事業の対象校の選定」としては、情報交換会後、事務局にて選定を進め、対象校と調整を進めたいと考えています。

最後に6「令和4年度事業に係る予算要求」としては、事務局にて財政当局に予算要求を行います。

表の下の※1として、本運営委員会では小牧小学校、光ヶ丘小学校において実施するモデル事業に対して、関係者アンケート結果等を参考に評価を行うとともに、その結果により、小牧小学校、光ヶ丘小学校の令和4年度事業の方向性を決定し、残り14校に対してどのように進めるのかを決定していただきたいと考えています。

令和4年度については、小牧、光ヶ丘小学校は基本的には令和3年度の評価等を踏まえて令和4年度以降も引き続き事業を続けていただき、さらに残り14校のうち、3校目、4校目が始まるような想定としております。

次に資料2-5をご覧ください。申し訳ありませんが表題に脱字がございます。放課後子ども従事者とありますが、放課後子ども教室従事者ですので修正をお願いいたします。大変失礼いたしました。

こちらが先ほど申しました情報交換会についてまとめたものです。

モデル校である小牧、光ヶ丘小学校を除いた14校については、児童クラブと放課後子ども教室に普段全く関わりがないところもあり、今後総合プランを進めるにあたっては14校で互いを知ることが必要と考えられます。

このため、1「日時」ですが、14校を中部、西部、東部と3地区に分け、6月末頃に、2「場所」ですが、各市民センターにて情報交換会を実施します。

3「参加者」は、児童クラブ、放課後子ども教室、市職員とします。

4「会の内容」は、事務局から制度説明を行い、情報交換を40分程度実施して、最後に発表を行い、概ね1時間程度で行いたいと考えています。

この会の結果は事務局でとりまとめを行い、各児童クラブ、放課後子ども教室に送付するほか、皆様にも郵送で配付させていただく予定です。

最後に資料4をご覧ください。

小牧、光ヶ丘小学校における合同の体験活動については1学期から開始されますが、皆様に実際に様子をご覧いただくことで、本委員会での評価につなげることができると考えています。

つきましては、同じ日に集中しないよう3「対象者割り振り」のように割り振りさせていただきましたので、もしご都合がよろしければご参加くださいますようお願いいたします。

表のうち、Bとあるのは11月頃に実施される有償講師等による本格的な活動を行う日を示し、Aはそれ以外の合同の体験活動の日を示します。

具体的な日程は近づきましたら別途お知らせします。現段階ではこのような予定があるということをご承知おきいただきたいと思います。

なお、基本的に参加は任意とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。議題4の1に係る説明は以上です。

【副島委員長】

ありがとうございました。資料で説明をいただきました。ここについてご質問やご意見等がありましたらお願いします。

昨年度から引き続きの委員の方はよくご存じだと思いますが、事務局の案については、このままでいこうということはあまりありません。皆さんから意見を出していただいて、最初の案よりも、どうしたらよいかということで、副委員長と2人であれこれと検討しながら更新したこともありました。意見があればぜひ出していただいて、よりよいものをつくっていくという形でやりたいと思います。

なかなかすぐにご発言いただくことも難しいかもしれませんが、質問でもご意見でも結構ですので、お願いします。

【伊藤委員】

資料の2-2、2-1で、活動の内容を書いているところがあります。家庭に代わる生活の場と体験活動の場と青い点線で囲ってある、読み聞かせや工作の部分です。資料の2-2と2-1でやや統一性がないというか、内容が少しずつ違ったり、説明が入っていたり入ってなかったりというところですね。見やすさということはあるかと思いますが、概要のほうは配られますよね。

【事務局】

すでに配ってあります。

【伊藤委員】

この配ってあるほうにもっと詳しく具体例を書かれたほうがよかったのかなと、ふと思いました。でも皆さん、活動の内容はおそらくお分かりですよ。

【事務局】

資料2-1は、昨年度、委員をお務めいただいた皆様は見覚えがあるかと思いますが提言書に組み込んである書式そのままとなっております。

一方で、資料2-2は、先ほど私が利用者向けと説明させていただきましたが、この3月中旬頃と、5月頃に小牧と光ヶ丘の児童クラブを利用されている児童の保護者と、放課後子ども教室に登録された児童の保護者に対して、このようなモデル事業を2つの学校でやっていきますということで、既に事務局のほうから配付させていただいているところです。

専門的な用語が飛び交う資料でもありますので、ぱっと見で分かりやすいものではないと思いますが、今のところ、児童クラブと放課後子ども教室の利用の方に送付させていただいた反響は特に事務局に寄せられていませんので、恐らく受け取られた保護者の方も、そのようなことを実施するのだな、というような認識でいらっしゃるのかわかりません。以上です。

【副島委員長】

どちらも活動の内容を書くと、それに動かされるというところがあると思います。あくまでも例ですので、この内容にあまり左右される必要はないかなと思います。

【岩下委員】

うちの子は児童クラブを利用していなくて、今、中3の子が小学校1年生のときに入っていた

ことがあり、雨の日はプラパン作りという、工作に似たようなことをやってくれました。ここには「工作」は放課後子ども教室のほうに入っていますが、今言われたようにあくまで例と考えていいのでしょうか。

【副島委員長】

今言われたように、雨のときは外遊びできないので、いつも本読みや、宿題をやるというだけでは終わらないということで、おそらくいろいろなことを工夫されていると思います。ですので、そのようなものがどんどん入ってきてもおかしくないと思います。

【山井委員】

光ヶ丘小学校ですけど、今回、体験活動の内容としてマジックショーと出ておりますが、同じくコロナの影響があり、去年、ご年輩の方が多いため断念されたということがありました。

今年は、やはり1年この状況が続けてきた結果、やっている方々の目標がなくなったことが寂しいからということで、3月にお声をかけたら、ぜひやりたいという声が上がってきました。喜んで私たちもお願いしたいとお伝えしましたら、緊急事態宣言が延びました。学校側も心配されております。委員長も言われましたが、お子様への影響が、目に見えてでてくるようになっていまして、低学年とか小学生の方が多いいということも改めて昨日知りました。マジックの団体と、もう一度開催時間の確認を連絡しましたが、まだその返事はいただけていません。そのような状態ですが、場所さえ広くすれば、このまま予定通りやっていいのでしょうか。学校がもし止めてくださいと言ったら中止になりますということなので、非常にもやもやしています。予定ありきで進んでいくようですが、この緊急事態宣言中でも開催していいのか、やはり緊急事態宣言があるから6月中はやらないほうが正解なのか、非常に悩んでいます。

【副島委員長】

何かお考えはありますか。

【事務局】

今は緊急事態宣言が出ており、その中でさまざまな活動の判断について説明いたします。放課後子ども教室につきましては、現在のところ市で学校活動の一貫と判断をしておりますので、昨年度は中止したということは当然でございますが、今年度は、年明けもそうでしたが、放課後子ども教室を中止とはしていない状況です。あくまでも学校活動の一貫と見ております。

同様のものとして、こども政策課では駒来塾を実施していますが、会場が公共施設ということもあり、昨年度は、中止をいたしました。こちらにつきましても、やはり教育活動の一貫というところがございまして、現在は特別に実施をしているという状況になります。今の判断はなるべく学校活動を止めないと聞いておりますので、実施できているという状況です。

ただ、今後の学校での感染状況によっては、変更となる可能性はございますが、今のところは学校活動の一貫ということで中止していないという理解でおります。

【山井委員】

放課後子ども教室は、子どもたちの教育の場ということで開催させていただくのですが、外部の方がいらしての活動でもいいということですか。

【事務局】

学校教育課の立場でいきますと、先ほどこども政策課の課長が言われたように、教育活動を止

めない方向で今進めております。平日の部活動については、現在実施はしておりますので、同じ感覚で考えてもらえればと思いますし、場所の広さ、換気、マスクを注意していただいで開催していただければ大丈夫だと思います。

外部からの方につきましても、一切止めるというわけではなく、各校でも呼んでいるところがありますので、例えば非常にたくさんの、30名とか40名が来るようなことになるとまた別ですが、小学校のセルフディフェンスとか、実際行っておりますので、そのように考えてもらえればと思います。

【山井委員】

願うする方にも丁寧に説明して、なるべく来ていただけるようにということで進めます。ありがとうございます。

【副島委員長】

結局、安全の配慮をどこまでしっかりとできるかということだと思います。教室では普通に子どもたちは学んでいるわけですし、児童クラブも現在開所しているので、その現状よりも危険になるというようなことはできるだけ避けるということだと思います。

私の知り合いで読み聞かせのボランティアの人たちがいて、小牧の養護学校へ行きます。養護学校の子たちは、心配もありますがとても楽しみにしているから、ぜひ、ということで、できるだけ直接は避けて、校内で画面を使うようなことを主体とするようにしています。いろいろな工夫を、どのようにするかということが大事なことかと思ひます。危ないかもしれないけれど、とりあえずやってしまおうではなくて、やるなら配慮しながらやるということが大事かなと思ひます。他はよろしいでしょうか。

【高沢委員】

とても初心者のような質問かもしれないのですが、放課後子ども教室に参加している児童の数は、大体どれぐらいいるのでしょうか。うちの子どもは入っていないのですが、小牧小学校と光ヶ丘小学校で今参加している児童の数はどのくらいでしょうか。

【副島委員長】

登録している人ということですね。小牧小、光ヶ丘小で分かりますか。

【佐橋委員】

今年度、小牧は、火曜日が14名決定しました。木曜日は21名でスタートします。

【山井委員】

光ヶ丘は24名です。私も教頭先生とお話するのですが、いつもは25から30名程で募集していますが、去年からやはりこのような事態なので、教室の環境を整えるためにということで、20名前後としています。皆さん理想的な内容があるのに、希望があっても落とすんですね、抽選をして。そこがとても心が痛いというか。でもこちらにも力がないので、たくさん応募いただいた皆さんに参加いただくことができなくて、人数を絞ったということがつらいと感じています。希望がある方に、対象の方全員に案内をお配りしているのだから、皆さんを受け入れたいという気持ちはあるのですが、抽選しています。

【佐橋委員】

他校でもコロナが蔓延する前は1クラス分とか、申込みがあったら全員受け入れていますという学校もあったのですが、コロナが流行してきてからは、各校定員を減らしています。小牧小学校ももともとは30名程でしたが、半分程度に減らしています。それが現状です。

【副島委員長】

いろいろ参加するほうも危険を避けたいということもあるかもしれませんが、多くなりすぎては困るという主催者側のこともあると思いますが、現実は今ぐらいの人数ということですね。

【伊藤委員】

今の質問に関連して。マジックショーを予定されているということで、今のところはこのまま実行に移していく形になると思いますが、クラブからは何名程参加するかという数の報告はどのようにされていますか。まだ募集はされてない状況ですか。

【柿本委員】

合同というものを去年も2回ほど行いましたが、児童クラブの性質というのは、お仕事がある方のお子さんをお預かりすることなので、前もっての人数確認もなかなか難しいですね。保護者の方がお休みになると、もうその子は来られないですし、マジックという内容で、本人が来たいと思っても、保護者の方がお休みなのに児童クラブに出席されることはいけないことになっていることもありまして、なかなか大体の人数しか把握できない状況です。22、3人程ということで、こちらも当日人数を絞る必要もあるかもしれません。

今回、マジックショーは1年から3年までが対象で参加すると思いますが、当日、学校の下校が確か1年から6年まで通学班下校で、一斉に帰ってくると、マジックショーに行くと言ったら、大きい子供たちは行きたいと言って人数が増えてしまったらどうしようとも思っています。ですので、もう1年から3年ということで前もって人数を決めようかとも思っているのですが、それでも合計で20人ぐらいですかね。

【山井委員】

上の階にある、2部屋を抜いた多目的教室という大きい部屋を利用しようと思ったのですが、教頭先生が心配されて、学校で検討して体育館というのもありかなということをお先ほど教えていただきました。

【倉知委員】

学校として迷いがあるのは、先ほどの学校活動の一貫ということで、学校活動もできるだけ止めないということについてですが、緊急事態宣言が延長になり、いろいろなことに制限が設けられてきています。プールもできない、各学年で外へ出て、例えば菜の花プロジェクトの菜の花の畑へ出かけて行って刈り取るといった活動も全て制限が加わり、中止または延期になっています。子どもたちは本当に我慢の中で、学び合いで友達と話すことさえ制限の中で距離を取ってやっている状態です。私自身思うのは、例えば学校で本当に優先的にこの活動は絶対やりたい、でも制限があるという中で、選択を迫られる中で、いろいろ選べるものと選べないものとある状況なのです。だから、セルフディフェンスは学校としてやってほしいとこちらから言っているわけではなく、そうやると決まっているのでやるわけなのですが、このマジックショーはやってほしいですよ。子どもたちが絶対喜ぶのは分かっているし、やってほしいのですが、それならば全員がそれを楽しめるかということ、やはり放課後子ども教室に通っている子プラス児童クラブの中でも希望者だけ。行きたくても行けない子ってたくさんいますよね。その中で、このような状態の中

で実施していいものかという迷いが自分の中にあります。

先ほどの話にもありましたけど、やはり放課後子ども教室に行きたいけれども行けない子、今年の結果的に抽選になり、出たくても出られない。学校でもいろいろな活動が制限される中で、我慢し続けている子が大半の中で、このようなことを実施すること自体は本当にいいことだと思うのですが、ただ、それなら他の子たちは何も楽しみがない中で、このマジックショーだけ楽しむ子がいるというのが、自分としては申し訳ないですが少々もやもや感があります。早くコロナが収まって、このような活動は何でもやっていいとなることを願っているのは、学校の職員もみんな一緒だし、子どもたちもそうだと思います。その中で、先ほど工夫という話もありましたけど、どこの場所でどのように実施して、子どもたちにどのように満足感を与えられるかというのは、やはり皆さん心を砕くところです。それは特に現場の山井委員は日々それにずっと悩んでみえて、学校にも何回も、毎日のように相談に来ていただいて、準備していただいたりしていますが、そのような中で現場が動いているということを知っていただきたいなと思います。

もちろんスケジュールを決めていただいて、このようにやると言っていて、ありがたい部分もありますが、学校としては見ているのはこの子たちだけではないので。全部の子たちがどのように日々過ごすことができるかということを考えているので。

健康や安全を守るためには、やはり制限するところは制限しながら、我慢するところは我慢しながら、という中ですので、不安に感じる部分はきちんと伝えなくてはいけないと思いますし、その中で相談しなければならないこともあり、迷いながらの日々です。

【副島委員長】

ご苦労しながら、というのがよく分かります。

日程は、わざわざ緊急事態宣言の中でやる必要があるのか、例えば21日以降なら、少なくとも緊急事態宣言は解除されている可能性があるわけですね。もちろん相手のあることですが、そのようなことも含めて、一度17日と決めて市にも報告してしまったから、それはもう変えられないというよりも、やはり子どもを中心に考えたほうがいいのかという気はします。しかし、これはあくまでも学校の中の話ですので、よそからどうこう言えないのですが、そのようなこともいろいろと検討した上でこうしましたというのは必要なのかなと思います。一度決めて報告してしまったから、もうそれは大前提だという必要は全くないのではないかと思います。

ただ、この委員会としては、モデル校でもあるので、放課後子ども教室だけで行いましたという、ほとんど意味がなくなってしまうので、そういうことも含めて検討していただけるとありがたいと思います。他はどうでしょうか。

【山田委員】

ここの概要にボランティアさんのマジックショー、音楽鑑賞、季節の折り紙と書いてありますが、マジックショーと折り紙につきましては、今回要望をいただきまして、それぞれにお話は聞いていると思います。音楽鑑賞というので、実は視覚障がい者の会というボランティアの団体があるのですが、その会に所属している小島玲さんという20代の男の方で、目が見えなくて、盲学校で教師を目指しております。ピアニストという面があって、私もコンサートを見たことがあり、そういった方が小牧の教育委員会にも自分で出向かれて、子どもたちの前でコンサートをやらせてくださいというようなことがありました。以前お配りしたボランティアグループ一覧には個人名ですので載っておりませんが、ボランティアの中で個人でピアノを弾いて、目が見えないけど頑張っているという方がお見えになりますので、機会がありましたら参考にさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【副島委員長】

ありがとうございました。他よろしいでしょうか。

それでは、議題の2、関係者アンケートについて、事務局お願いします。

【事務局】

それでは、関係者アンケートについて説明いたします。

資料3-1をお願いいたします。

先ほどの説明で、今年度モデル事業の評価を行うための資料として関係者に対してアンケートを11月頃までに実施するという事をご説明させていただきましたが、そのアンケートの概要となります。

まず1「時期」としては、いわゆる2学期に行い、モデル校である小牧、光ヶ丘小学校で1回ずつ行いたいと考えております。

2「対象者」としては、アンケート実施日の合同の体験活動に参加した児童、ただし、アンケートへの記入がまだ少し難しいと思われる1年生は除外する方向で考えております。

それから保護者としては、合同の体験活動に参加できる可能性がある小牧小学校の場合は、2年生以上の児童クラブ通年利用児童の保護者の方全員、放課後子ども教室に現に登録されている児童の保護者全員、それから光ヶ丘小学校の場合は、3年生までの児童クラブの通年利用児童の保護者の方と放課後子ども教室に現に登録されている児童の保護者の方を対象にしたいと思っております。

さらに、従事者としては、小牧、光ヶ丘児童クラブの通年の従事者全員と、現の放課後子ども教室の従事者の方といたします。

3「配付と回収」としては、児童につきましては合同の体験活動その場で配付して記入してもらい、その場で回収。保護者につきましては郵送でのやり取りとし、従事者につきましては児童と同じように合同の体験活動の場で配付しますが、回収につきましては、それぞれ児童クラブと放課後子ども教室をまとめていただいて、後日回収という形にしたいと思います。

4「アンケート用紙(案)」は、次の資料で説明いたします。なお、別の目線で同じような質問を幾つか行い、比較検討できるようにしたいと思います。

5「アンケート結果の活用」につきましては、繰り返しになりますが、小牧、光ヶ丘小学校のモデル事業の評価・検証及び両校の令和4年度の事業内容を検討するための資料として使う予定です。

次に、資料3-2をお願いいたします。

こちらの資料は、児童向けと保護者向けと従事者向けということで、それぞれアンケート用紙になっておりまして、3枚あります。3枚とも回答にあまり時間がかからないよう、A4の表裏1枚で作成しております。

まず児童につきましては、本人の学年、体験活動が楽しかったかどうか、「楽しかった」と回答した場合の理由、体験活動の時間の長さ、今後の参加希望回数、今後参加してみたい活動を聞く内容となっております。

保護者用につきましては、まずそれぞれ児童の利用事業と、どの程度楽しいと思っているか、家庭でその利用事業のことを話すかどうか、この放課後子ども総合プランへの賛同の有無、児童に体験させたい活動の内容を聞きます。

従事者につきましては、現にどちらの事業に従事しているか、合同の体験活動を児童が楽しんでいたかどうか、準備についてはどうだったか、この活動は児童にとって意義があると思うかどうか、望ましい体験活動の回数と、その他自由意見を聞きます。

この資料3-2につきましては、現在（案）という形で提示させていただいておりますが、表現の仕方等も含めてご意見をいただければと考えております。

説明は以上です。

【副島委員長】

今年度の委員会の仕事の一つとして、2校のモデル事業の評価・検証ということがあります。釈迦に説法みたいなことは必要ないと思いますが、評価というのは間違えてはいけなくて、5・4・3・2をつけたりA・B・Cをつけたりするのが評価ではなく、次によりよいものにしていくためにどうしていくかというのが評価です。自分たちの実施内容がよかったかどうかということと判断されるのか、といったような意味では全くありませんので。今年を取組を見て、このようところは伸ばしていきたいねとか、このようなことはみんなで気をつけてやっていかないといけないねとか、そういうことが評価ですので、そこは間違えないように、ぜひお願いします。

これについて、特に方法としてアンケートをまず今年は実施したいということが出ていますが、それについてのご意見等、ありましたらお願いします。

【佐橋委員】

資料を送っていただいたときに見させていただいて、児童のアンケートですが、全学年一緒の内容とするため、おそらくこの読み仮名をたくさんつけてくださっていると思います。小牧小学校は2年生からしかいないのでいいのですが、他の学校では1年生もいると思うので、文章自体「以下の質問に答えてください」、「記入してください」という表現よりも、もう少しかみ砕いた形で、低学年と高学年と様式を変えていただけると子どもたちには分かりやすいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

【副島委員長】

当然これはたたき台ですよ。

【事務局】

はい。

【副島委員長】

たたき台ですので、今のようなご意見をいろいろといただきたいと思います。

【伊藤委員】

「以下」というのも、実際に分かりやすく書くといいのではないのでしょうか。例えば、質問の番号が質問1から6までであるので、「質問1から6までであるので、よく考えて書いてくださいね」というかみ砕いた言葉で分かりやすく示してあげれば、6年生が見ても1年生のレベルまで下りてきてくれるので、統一して一つのもので何とかなるのではないかと思います。少々表現のところで、やはりこの質問3の「あまり見たことがないことができたから」というのも、やや回りくどくて、大人の私でも丸が打てるかなと疑問に思いましたが、いかがでしょうか。

あと、質問4の「十分だった」というのを「ちょうどよかった」にしてあげると子どももよく分かるかなと思います。少し表現を変えられたらと、私も佐橋委員の意見に同意します。

【副島委員長】

質問3は、みなさんも感じると思うのですが、1つしか選んでいけないのか幾つでもいいのか

が、まずよく分からないというのがありますね。

それから、ア・イ・ウとか何かつけた方が、答える側も分かりやすいかなと思います。文でずうっと書いてあるよりは、この中から1つ選んでくださいとか、これについては、当てはまるものは幾つでもいいですよというのがあったほうが、分かりやすいかなという気はします。

今すぐ配るというものではないので、いろいろご意見をいただければ、もっと親しみやすいものにできると思います。フォントや何かもちよっと変えるだけで、子どもには親しみやすいものになったり、堅苦しいものになったりしますよね。

【伊藤委員】

せっかく配られるのですから、後々役に立つようにご意見を吸い上げられるような形のものにできるといいと思います。やはり文章を読み解く力がある方はどのようなものにも対処できると思いますが、同じ学年でもいろいろ得意なことや不得手なことがあると思うので、どのお子さんが読まれても、どなたが見られても、きちんとその人の心がこの紙面に乗るような形に持っていつてあげるべきではないかなと私は思います。

もう少し分かりやすく、もう少し考えて作っていただけたらありがたいですね。

【副島委員長】

アンケートは、合同の活動のときには必ずとるということですか。

【事務局】

いえ、そのうちのどこか1回をピックアップします。

【副島委員長】

1回ということですね。そうすると、2学期に行くということでもいいわけですね。

【事務局】

そうですね、1学期の体験活動は、小牧、光ヶ丘どちらにとっても1回目になりますので、いろいろと初めてであり、準備もまだまだ慣れないところですので、そこは避けようと思っています。結果的に2学期の活動で、9月、10月か、あるいは11月の本格的に行う方で、アンケートをとりたいと思っています。

【副島委員長】

もう実際に実施するということになると、ものすごくいろいろ意見が出てきますからね。イメージが湧くものですから。でも年度の初めだと、まあこのようなものかなとか思ったりもするので、今後も変わってくる可能性はあると思いますね。

ただ、両方の学校で同じ形式でやりたいということはあるわけですね。

【事務局】

そうですね、そこは比較するためにも、総合的に見たいところです。

ただ、先ほど佐橋委員がおっしゃっていた児童用については、学年によって表現を変えるということも対応できる内容だと思います。

【倉知委員】

先ほど、児童用の質問3のところが出ていますが、やはり楽しいと感じるのは、子どもは様々

で、知らない大人が行って楽しいとか、他の子が楽しそうだったとか、あまり書かず、そこは本人の書き込みでもいいかなと思います。逆に、質問6は例がいくつもあるので、丸を幾つでも打っていただくような、選択式にしたほうが子どもは答えやすいかなと思います。

【香村委員】

保護者向けのアンケートで、「普段、楽しいと思っているか」というところに丸を打って下さいという表の中で、「ほとんど楽しんでいないと思う」、「あまり楽しんでいないと思う」という項目があります。楽しんでいるという言葉もいいと思いますが、なぜそう思われるのかという、自由意見みたいなものも聞けるといいと思います。保護者の方は郵送なので、しばらく書く時間もあるかと思います。何で楽しくないのか、子どもがどのように思っているのか、施設もそれを参考にしたいと思います。

【伊藤委員】

これは総合プランに関するアンケートですが、例えば児童クラブや子ども教室で、その参加者の方にアンケートをされたことは今までおありだったのでしょうか。

【事務局】

児童クラブとしては、大きく取ったというのはありません。放課後子ども教室もないですね。

【山岸委員】

私、味岡小学校で安全管理指導員をしているのですが、一応今まで毎年保護者の方に、お子さんに聞いてもらって、アンケートという形で年度の終わりにうかがっています。どのような活動が楽しかったですかなどを書いていただいて、こちらとしては結構いいことをたくさん書いてくださるので、これはよかったので来年もやろうかとか、とても喜んでくれているからやってよかったねという形で励みにしています。

【伊藤委員】

年度末に個々でということですね。

【山岸委員】

そうですね、指導員が独自にやっています。

【伊藤委員】

他の学校もそのようなところはあるのでしょうか。

【山岸委員】

他の学校のことは分からないのですが。

【伊藤委員】

そのような情報交換はないということですか。

【山岸委員】

はい。

【佐橋委員】

私たちが年度の最後に、子どもたちには、1年間でどれが楽しかったか口頭でアンケートをとっています。

【伊藤委員】

保護者の方にはお配りしていないのですね。

【佐橋委員】

渡していないですね。

【伊藤委員】

分かりました。これは、とてもいい機会かなと私は思います。普段なかなか聞けないご意見などいただくと励みにもなりますし、反省点があったら、今後このようなことに生かしていこうとか、次につながることはとても大事だと思います。本当に、個々の状況で、さまざまなご事情もあると思いますので、いろいろな意見がもしかしたらあるかもしれませんが、そのような意見も書き添えるようなところがあってもいいかなというご意見に私は賛成します。何か役に立てばと思いますので。

すみません、もう一つよいでしょうか。

【副島委員長】

はい、どうぞ。

【伊藤委員】

この資料の3-2の従事者のことです。質問4のところ、「とても意義があるとも思う」と、「も」が入っているのは、これは何か意味がありますか。

【事務局】

すみません、不要です。

【伊藤委員】

要らないですね。分かりました。すみません、後で聞こうかなと思ったのですが。

【副島委員長】

アンケートについては、おそらく、近づけば近づくほどまた意見がたくさん出てくると思うので、これは、舟橋コーディネーターのお仕事ですね。

【事務局】

はい。では私のところにご意見をお寄せください。子ども用にはカットを入れてかわいくしたいなと思っています。

【副島委員長】

また気がつかれたら、どんどんコーディネーターに個人的に電話したりメールを送ったりできると、コーディネーターも活動ができるので、ぜひ活用してください。

【山岸委員】

資料2-4のスケジュールのところ、11月の会議のところアンケートの集計を提示したいというお話だったのですが、そうすると、2学期の体験活動を9月、10月に予定をしなければいけないのですが、それはこちらの体験活動によってアンケートの集計の時期もずれ込むと考えていいのでしょうか。

【事務局】

2学期の活動については、そもそも合同の体験活動をいつやるかについても、この資料2-4の上では明記していない状況です。事務局の動きとして、6番の予算要求のスケジュールが市の中で決まっています、通常だと10月いっぱいぐらいで要望資料を作成して、11月中にヒアリングを受けて、12月のちょうどクリスマスになる直前ぐらいに予算内示が出るようなスケジュールで動いています。その11月のヒアリングぐらいまでには、どのような形で令和4年度を進めるかというのを、ほとんど見えるような形にしておきたいという思いが一つありまして、ここからの逆算になっています。

ただ、今回のアンケートのうち、児童と従事者の方向けについては合同の体験活動のその日に配付ということベースにするので、その日程に縛られますが、保護者の方向けのアンケートについては、合同の体験活動がもともと1学期でも行われるという形になっている関係で、最低1回は行われた上でのアンケートになりますので、保護者アンケートの配付時期は、児童と従事者への配布とは必ずしもタイミングを一致させる必要はないと考えています。

その前倒しができる点で事務局の集計作業も少し余裕を持ってできると思います。第2回の委員会の日程に間に合わせるための集計作業は、あまり日数を要しないとは思っています。

しかし、第2回目の委員会を12月に持ってくると予算の要求が厳しくなってしまうので、今11月中旬としてありますが、下旬ぐらいはまだいいかなと思います。そこはご相談ですが、11月の中旬ぐらいまでにアンケートを取れる活動があって、その場で取れて、こちらが1週間ぐらいで集計して委員会でお配りする形ができればと思いますが、そこはまた別途調整と考えています。

【副島委員長】

今の事務局のお話を聞くとよく分かりますよね、来年度予算のヒアリングがあるということです。今年度も予算措置がしてあるから、講師料が必要な場合も呼べますよということがあるので、来年モデル校が増えれば、そのような予算もある程度取ってもらわないと、予算がないから無理ですとか言われても困るわけです。そういうことも考えると、スケジュールもある程度は配慮しましょうということになるのかと思います。

今年度のスケジュールは出ていますが、このように3年度は少数で実施して、第3回目の委員会のときには、もう来年度は例えば4校になり、この4つの学校をモデル校にしてやりますというようなことを最終的に決めていきたいと思いますね。実際に見たり、いろんなところにこちらも参加したりしながらイメージをつくっていくという形になると思います。

おそらくその後は、4年度は4校でやって、5年度になると全校でやりたいという話になると思います。そうすると、今年度と来年度に実施する中で、モデル校だけではなく、他の学校も、ああ、こういうことなのかと分かって、イメージができてくるといいと思います。自分の学校なら何ができるかというようなことは、来年度は、もうある程度頭の中で考えてもらわないと、全校になったときに、急に言われても困るようになっていけないと思います。ですので、今年度はまず2校で実施しながら、これでもう少し増やしてもできるねというような方向に持っていくこと

が大事な仕事かと思っています。

特になければこれで終わりにしますが、何かありましたらぜひお願いします。

よろしいですか。

(挙手する者なし)

ではこれで議事は終わりたいと思います。事務局にお返しします。

【事務局】

本日も貴重なご意見ありがとうございました。

それでは、次第の5. その他ですが、次回の委員会につきましては、先ほどご質問もございましたが、一旦11月頃の開催を予定したいと思っております。日程、場所につきましては、また詳細を改めてお知らせさせていただきます。

これをもちまして、令和3年度第1回小牧市放課後子ども総合プラン運営委員会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。